

第3次千葉県青少年総合プラン 令和2年度事業評価シート

事業NO	30
------	----

事業名	次世代ボランティア人材育成事業		
担当課・室・班名	県民生活・文化課 県民活動推進班	問合せ先(電話番号)	4147

1 事業の概要

柱	I	基本目標	2	基本方策	③子ども・若者の社会参加の促進					
事業内容	地域コミュニティを構成する様々な主体が、連携・協働しながら、地域を担う次世代ボランティア人材を、効果的かつ持続的に育成するため、市民活動団体などからの企画提案を募集し、採択を受けた団体を通じ事業を実施する。									
当初予算額(千円)	H30年度	1,081	R元年度	1,064	R2年度	1,064	R3年度		R4年度	
決算額(千円)		490		834		1026				
財源内訳	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源
	○		○		○					

2 事業実績・評価等

(1)事業の実施結果

応募1団体、採択1団体（特非）生涯学習応援団ちば
 「2020ちばおもてなし隊ビルドアップステージ～中高生のボランティア活動を確かなレガシーへ～」
 東京2020大会を契機とした、以下のイベント等を実施。
 ①オンラインワークショップ
 2021年にしたいおもてなしのアイデアをオンライン、オフラインの視点から検討するワークショップを開催した。
 ②おもてなし動画アワード2020
 2021年にしたいおもてなしのアイデアの動画や地元の魅力発信の動画を募集。計28作品の応募があった。
 ③オンラインフォーラム
 上記①、②で提案のあったおもてなしのアイデアについて、千葉にゆかりのある外国の方々(チーバくんパートナー)からその国の文化的背景等からの視点から意見をいただき、アイデアのブラッシュアップを行うフォーラムを開催した。

(2)事業の成果

①オンラインワークショップ
 新型コロナウイルス感染症を踏まえた、オンライン及びオフラインのおもてなしを、参加者自ら検討、提案等することができる機会を提供することができた。
 ②おもてなし動画アワード2020
 おもてなしのアイデアや地元の自慢を動画で募集することによって、自らおもてなしを考える機会や、地元の見つめ直す機会を提供することができた。
 ③オンラインフォーラム
 コロナ禍の影響により、外国人との交流機会があまりない状況を考慮し、千葉にゆかりのある外国の方々(チーバくんパートナー)を招き、参加者が外国の方々と交流できる機会を提供することができた。
 また、おもてなしの対象である外国の方々に直接おもてなしのアイデアに対する意見を伺い、アイデアのブラッシュアップを行うことで、今後の活動を具体化できる体験となった。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

若い世代(小中高大学生の年代)を対象とした、ボランティア参加プログラムや、企画への参画機会を提供することにより、地域を担う次世代ボランティア人材を育成することができたため、令和2年度をもって本事業は終了となったが、引き続き若い世代がボランティア活動に参画できる機会等を検討していきたい。

○参考

関連指標	[ボランティアへの参加促進] ボランティアとして活動したことがある若者(20代)の割合 <県政に関する世論調査>					目標	増加を目指します
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	
	40%	35%	30%	33%	40%		

4 委員意見

5 担当課回答

--	--

第3次千葉県青少年総合プラン 令和2年度事業評価シート

事業NO	35
------	----

事業名	グローバル人材プロジェクト事業		
担当課・室・班名	教)学習指導課	問合せ先(電話番号)	4060

1 事業の概要

柱	I	基本目標	2	基本方策	③子ども・若者の社会参加の促進					
事業内容	高等学校を対象に、国際的に活躍できるグローバル・リーダーを育成することを目的として、そのための質の高いカリキュラムの開発やその体制整備を推進するとともにその啓発を図る。 外国語教育を充実させ、小・中・高等学校を通じた系統性のある英語教育で、コミュニケーション能力等を確実に養い、グローバル化に対応した人材の育成を目指す。									
当初予算額(千円)	H30年度	44,612	R元年度	44,683	R2年度	27,067	R3年度	18,565	R4年度	
決算額(千円)		28,102		19,424		2,715				
財源内訳	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源
		国庫		国庫		国庫		国庫		国庫

2 事業実績・評価等

(1)事業の実施結果

<ul style="list-style-type: none"> 各小中学校で研修が行えるよう、学習指導要領の全面実施に向けた指導と評価の一体化を図る動画を作成し、総合教育センターHPに掲載した。 小学校の専科教員、中・高等学校の英語科教員の指導力等を高めるための研修については、国の事業が中止となったため実施できなかった。 公立中学校及び県立学校等に、英語の発音等の技能を身に付けさせる学習支援ソフトを導入した。 県立中学校2校、英語教育拠点校2校にAIと英語で会話できる学習支援ソフトを導入し、ICTを活用した授業改善の研究を行った。

(2)事業の成果

<ul style="list-style-type: none"> 各小中学校の校内研修等を用いて作成した動画を見ることで、学習指導要領の理解及び指導と評価の一体化に関する理解の促進を図ることができた。 英語の発音等の技能を身に付けさせる学習支援ソフトを用いて、生徒が個別に音読等の活動を充実させることができた。 AIと会話できる学習支援ソフトを多く活用した学校では、「話す力」が向上したと感じている生徒が74%いた。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の理解及び授業改善に向けた研修を継続的に行うとともに、各学校が適切に「話す力」を評価できるようパフォーマンステスト例を作成していく。 小・中・高等学校の連携を促進するために、モデル校を設定し研究を行う。 学習支援ソフトを効果的に活用できるよう好事例を周知していく。
--

○参考

関連指標	現状(基準年H28)	H30	R1	R2	R3	R4

4 委員意見

5 担当課回答

--	--